

Weekly Report

山梨中央ロータリークラブ

Rotary International District 2620
Yamanashi Chuo Rotary Club 2017-2018

会長 田中 雅貴 副会長 林 美喜枝
幹事 原田 哲 副幹事 田中 雅承
会計 笹本 哲翁 会報 小池 章治

事務所 〒409-3812 山梨県中央市乙黒158-2
(山梨ビジネスパーク(株)カルク 内)

TEL 055-273-5344 URL <http://yamachuo-rc.net/>
FAX 055-273-8010 E-mail rotary@yamachuo-rc.net

【例会日】 毎週金曜日 12:30~13:30
【例会場】 (株)カルク (055-273-5344)

Rotary 



ロータリー：
変化をもたらす

2017~2018 R.I会長
イアン H.S. ライズリー
第2620地区ガバナー 松村 友吉

2017年 12月 15日 第1792回例会

本日のプログラム

卓話 ロータリー財団委員会

会長挨拶

「沖縄の琉球ガラス」

会長 田中 雅貴

みなさんこんにちは。本日は来年度の役員、理事の選出がありますのでよろしく申し上げます。

今日の会長挨拶は、また沖縄の文化について話をさせていただきます。

みなさん琉球ガラスを知っていますか？よく沖縄のお土産屋さんで売っていますが、あれは似て非なるものですので注意してください。

琉球ガラスですが、Wikipedia では以下のように説明されています。

【琉球ガラスは、戦後に雑多な瓶を溶かして再生されたガラスを使用して作成されたことから、厚手の赤色や緑色などの多彩な色合いとなり、再生の過程で混入する気泡と相まって独特の味わいをもつガラス製品となった】とのことです。

琉球ガラスの工房へ行きますと、軒先にコーラなどのジュースの瓶が積まれています。最近では瓶の再利用だけではなく、新規にガラスの溶解から作成している工房もあるようです。

私としては、琉球ガラスといったら廃瓶から作成されたものが、味わいがあるといいと思います。最近は人気があるらしく、ベトナムなどで生産されて輸入されているものもあるようです。

沖縄生産こそが琉球ガラスですので、皆さんも購入の際には商品タグなどでしっかり確認して購入してください。間違ってもお土産屋の軒先に並べるものは買わないようにお願いします。

今日の会長挨拶は以上です。

幹事報告

幹事 原田 哲

1. 本日は田中会長が所用で欠席ですが、予定通り「年次総会」を行いますので、宜しくお願い致します。
2. 松村友吉ガバナー事務所より「ガバナー月信No.6」はまだ届いておりませんので、次回届きましたら配布致します。
3. 例会変更のお知らせ

☆甲斐ロータリークラブ☆

12月18日(月)の例会は「クリスマス家族例会」の為 時間・会場の変更

点 鐘：午後7時

会 場：「コットンクラブ」

(甲府市中央 4-3-20)

(TEL：055-233-0008)

12月25日(月)の例会は「職場訪問例会」の為 時間・会場の変更
(社会福祉事業施設見学)

点 鐘：午前11時30分

会 場：特別養護老人ホーム

「快晴苑」

(甲府市大津町 333)

(TEL：055-243-3939)

☆甲府東ロータリークラブ☆

12月22日(金)の例会は「年忘れ家族例会」の為 時間・会場の変更

点 鐘：午後6時30分

会 場：「レストランバー

アルフィー」

(甲府市中央 4-3-19)

(TEL：055-233-0300)

前回の例会記録

第1791回 出席報告

会員数	免除	出席者	欠席者	出席率	メイクアップ	前回の修正出席率
11名	0名	8名	3名	73%	4名	100%

届出欠席者 田中 雅貴君 原田 哲君

小池 章治君

届出失念者 なし

出席免除者 なし

メイクアップ 遠藤 一郎君 林 美喜枝君

田中 雅貴君 小池 章治君

ビジター なし

備考 なし

ニコニコ BOX

● 寒いですね。 鮎川 一明

● 前回休みました。

樋貝 浩久 林 美喜枝

★ 紙上卓話 ★

「母が喜んでくれる生き方(5)」

稲岡 春瑛 住職

さて釈迦が城を一步出たとき一陣の風が吹き、万灯はことごとくかき消されてしまったが、老婆が捧げたたった一つの灯だけが輝き続け、釈迦の足元を明るく照らしていた。

富者が有り余る財力で施した万灯は一陣の風で消されてしまうが、財物など何ひとつない生活の中で、真心を込めて施しをした一灯は消えることはなかったのだ。

毎月墓参りに行くとき、母はいつも小さくたたんだお札を用意していた。何のために大切なお金をお寺に置いていくのか、幼かった私は惜しいような気がしたものだ。しかし母は、そうしてわずかでも布施できることがとても嬉しそうだった。

—— 信仰への入口 ——

子供のころ、母のよれよれの服を恥ずかしく思ったことがある。けれどこの説話にあるように、母は真心を込めて精一杯生きてきた。そんな母を今は誇りに思う。母の一灯は今も輝き続けているだろう。母が手を合わせていたその先には、励まし慰め続けてくれた亡き両親や夫の姿があったに違いない。

「亡き人を思う気持ちは尊いが、それが即ち信仰というわけではない」と先輩僧侶に言われたことがある。たしかにそうだろう。しかし、愛しい家族への想いが、信仰への入口となってもいいはずだ。仏教は苦しみ悲しみながらも、今を精一杯生きる私たちにこそ必要な教えなのだ。先立った大切な方々が喜んでくれて、私たちに誇りに思ってくれるような、そんな生き方こそが仏の教えに沿った生き方だと私は信じている。

新年を迎えて、懐かしく思い出したい。自分がどう育てられ愛されてきたのかを。「泣かないで。あなたの幸せだけが私の願いです」という、姿なき声を受け取って欲しい。

年の初め、すべての人にとって幸せな年となるようにと願ってくださっている方々の想いを改めて確認したいものだ。

(終)

次回のプログラム 12月22日(金)

卓話 国際奉仕委員会